マックス株式会社　2023 年3月期決算及び 2024 年3月期事業計画説明会　質疑応答録

この質疑応答録は、2023 年４月 28 日（金）に開催したアナリスト、ファンドマネージャ向け決算説明会にて、ご参加の皆様からいただいた質問とその回答の概要です。

■インダストリアル機器部門について

［質問１］
コンクリート構造物向け工具の第４四半期（３ヶ月間）と通期の売上実績を教えてください。
［回答１］
コンクリート構造物向け工具の第４四半期（３ヶ月間）の売上実績は、海外４９億円、国内１４億円となりました。海外・国内合計は６３億円で７％の伸長です。
前年同期の実績は、海外４８億円、国内１１億円でしたので、海外は２％の伸長、国内は２９％の伸長となりました。
機械と消耗品でみると、海外の機械は５％の減少、消耗品は４％の伸長となりました。国内の機械は横ばい、消耗品は４４％の伸長となりました。
数量ベースでは、北米は機械２０％減、消耗品８％減、欧州は機械２７％減、消耗品１９％減、国内は機械ほぼ横ばい、消耗品３９％の増加となりました。

コンクリート構造物向け工具の通期の売上実績は、海外２２４億円、国内５５億円となりました。海外・国内合計は２７９億円で２２％の伸長です。
機械と消耗品でみると、海外の機械は１８％、消耗品は２６％の伸長となりました。国内の機械は１４％、消耗品は２３％の伸長となりました。
数量ベースでは、北米は機械４％減、消耗品６％増、欧州は機械５％減、消耗品３％増、国内は機械１１％、消耗品１５％の増加となりました。

［質問２］
コンクリート構造物向け工具の在庫調整の状況について教えてください。
［回答２］
機械・消耗品ともに在庫調整があったと認識しています。
北米は、第３四半期途中まで物流が不安定だったこともあり、ディーラーが保有在庫の水準を高くしていましたが、その後、物流が安定し、ディーラーが保有在庫を本来の水準に戻したことで、マックスからの販売が鈍化しました。一方、ディーラーからユーザーへのセールアウト自体は堅調で、第４四半期末時点で主要ディーラーにおける在庫調整はほぼ完了したと考えています。
欧州は、代理店やディーラーの保有在庫の水準はそれほど高くなかったものの、不透明な景気見通しから代理店やディーラーが在庫を圧縮する傾向となり、結果としてマックスからの販売が鈍化しました。

［質問３］
コンクリート構造物向け工具のセールアウトの状況について教えてください。
［回答３］
ディーラーからユーザーへの出荷自体に大きな変化はないと認識しています。特に北米は堅調であり、欧州についても景気の不透明感がリスク要因となっているものの、建設現場での需要が極端に減少していることはないと考えています。

［質問４］
コンクリート構造物向け工具の２０２４年３月期の計画について教えてください。
［回答４］
２０２４年３月期のコンクリート構造物向け工具の売上高は３１０億円を計画しています（対前年で約１１％の伸長）。北米については、非住宅市場に対する投資が堅調であることから、順調に成長していくと捉えています。欧州についても、堅調に推移すると捉えていますが、不透明な景気見通しやロシア・ウクライナ情勢の長期化による公共工事の遅延等がリスク要因として考えられます。国内は、既存の建築市場での用途（使用シーン）拡大の提案を行うことで、手作業から機械への置換えを進めていきます。

■全社状況について

［質問５］
２０２４年３月期の荷発費の見込みを教えてください。
［回答５］
２０２３年３月期の荷発費は、第２四半期をピークとして、第３四半期と第４四半期は対前年で減少しました。全社売上高に占める荷発費の割合は、上期６．５％、下期４．７％となりました。
２０２４年３月期の荷発費は、２０２３年３月期下期の水準を想定しています。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する内容は、当社が 2023 年４月 28 日現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご了承ください。